

平成26年度 第5回豊田市商業振興委員会会議録

【日 時】 平成26年9月2日（火） 午後1時30分～5時15分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎5階 南53会議室

【出席者】 〈委員〉

加藤 勇夫 [愛知学院大学名誉教授]
河木 照雄 [豊田商工会議所副会頭]
浅井 良隆 [コンサルティングオフィス アット・ドリーム]
澤田 恵美子 [豊田市消費者グループ連絡会会長]
尾碕 眞 [愛知学院大学商学部商学科教授 博士]
服部 正雄 [トヨタ生活協同組合 特別顧問]
杉田 雅子 [株式会社 杉田組 ブルーベリー事業部取締役]

【欠席者】 河原 郁子 [とよた下町おかみさん会 平成24年度会長]

〈事務局〉

寺澤 好之 [豊田市産業部副部長]
三浦 浩 [豊田市商業観光課課長]
鈴木 啓介 [豊田市商業観光課担当長]
山田 統裕 [豊田市商業観光課主査]
水野 宏美 [豊田市商業観光課主査]

〈傍聴者〉

なし

【次第】

- 1 部長あいさつ
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 3 委員長あいさつ
- 4 審議事項
 - (1) 次期商業振興プラン【提言】について
 - (2) 商業振興条例（案）について
- 5 その他
- 6 連絡事項
- 7 閉 会

【会議録（要約）】

- 1 課長あいさつ
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
事務局から説明しました。
- 3 委員長あいさつ
委員長があいさつをされました。

4 審議事項

- (1) 次期商業振興プラン【提言】について
- (2) 商業振興条例（案）について

【補足資料】

- ① 豊田市商業振興条例、豊田市中心企業団体等事業費補助金交付要綱見直しスケジュール（案）
- ② 提言書（案）
- ③ 豊田市商業振興条例

事務局から資料に基づいて説明を行い、委員から意見をいただきました。

【資料①】 豊田市商業振興条例、豊田市中心企業団体等事業費補助金交付要綱見直しスケジュール（案）について、事務局より説明

【資料②】 提言書（案）事務局より説明

事務局 今後のスケジュールについて、事務局から説明をしました。

委員 平成27年度から29年度の3年間のことだが、3年間だけで終わる訳ではないので、10年先を目指して考えていかなければならない中で、最初の3年間です。3年間でやるべきことと、10年間の視野に置いて考えることです。明確にする必要があります。10年間の構想を立てておいて、そのうちの特に3年間をみるのか、10年先を想定しながら3年間だけで見るとかです。

事務局 考え方として、駅前再開発があり、駅周辺広場の構想もあるので移りゆくと思う。急激な変化かもしれないので、柔軟に捉えられるような考えです。

委員 10年先であれば、会議所、まちづくり会社との連携、官民一体となった総合性と一体性です。市民の生活向上が目標だと思います。市民のことをもっと考えて、単に歩けるまちだけではいけないです。回遊性のある街でないといけないです。商業施設、マンション、居住、福祉、アミューズメントも必要です。回遊性が大事だと思います。

事務局 スケジュール感ですが、短期的な節目として、北街区が平成29年です。ららぽーとが平成30年です。周辺の大型店舗がそれに目掛けて、みよし、岡崎のモールがほぼ倍に増床するという動きがあります。北街区の完成時期と合わさって来ているので、踏ん張りどころです。北街区に合わせてハード的にどこまで出来るのか、もう1つは、テナントミックス事業が進みます。ソフト・ハードの両輪で、29、30年に迎え撃つことです。ただ、そこで街づくりは終わりではなく、都心環境計画で議論していただいている長期的視野に立って、豊田市ならではのまちづくりがどうあるべきか議論していただいています。郊外のモールにない都心の強みを生かすことが大事など助言をいただいている中で、公共施設を活かす、モールにはない駅があり、緑の空間、空地を活かす、

テナントミックスされます。影響が来ても商業ががんばっていけるように目指して進めています。都心環境計画、中心市街地活性化事業、商業施策一体でまとめていきたいと思っています。

委員

この施策が、都心環境等の関係と、どう位置づけられるのかです。影響評価の中で、みよし岡崎への買い物が増加している、他の吸引率は変わっていない、そういったところでの齟齬をきたしていることはないかとかです。インフラ等整備する中で頑張ってもらわないといけない商店なりにフォーカスを当てていく位置づけで物を言っていくのか、イメージが見えないと、あれはあれ、これはこれになってしまいかねないです。実際にやる人たちが、やる気になってもらえるような施策を中心に目玉として提言していくんだというのなら、強調して出していくことが必要かと思います。

委員

気になるのは、テナントミックスビジョンと都心環境計画、施策との関わりです。どう繋がっていくのかです。3つの視点の部分については、これまでの施策は単発的に終わっていたのかなと思う。今まで効果が出たのかということ、やっただけという話であって成果ではないです。今回、新たな3つの視点という部分で、3つの視点が引き継がれて、持続的にやっていくよという視点は逃せないのかなと感じています。

委員

ハードの制約とか今回厳しいものがあります。交通止めや一方通行というのは、商業者にとっては致命傷です。広場で何かをやるということについて、これからは高齢者だと思います。デイサービスの人たちが来て、元気を出すことです。ソフト事業を行ったりします。3年間の中でも商業力を引き出すということは評価できます。まちづくりのハード面は、商業、生活とか色々な目線の中で検討していかないと厳しいかなと思います。

委員

具体的に誰が何をやっていくのか、行動計画が示されていないです。行動計画が示されていないと、絵に描いた餅になってしまいます。例えば、某商業施設が出てきたとき、規模、財力、集客力、他の魅力も違います。そういったとき、どういう形で、どういうものを出して、その行動計画の中で誰が何をやるかということまで持っていかないといけないと思います。こういう風に手を差し伸べていただいたら、我々でもここまでやれますよねという話が出てきた時に、この条例が対応できるようになるとありがたいと思います。

委員

都心環境計画の有識者会議の新聞を読んだが、公共空間みたいなものが主になっていて、消費者のものが無いような感じがします。都心に住んでいる方だとか、都心にいる方の姿が見えないです。また、広場でやっているイベントは短編的なものになってしまいます。確かに、イベントがある時は、人が集まってくるが、イベントを見てそのまま帰られたら、まちの活性化はないです。商業者がやる気になって、まちの活性化に繋がるようなことをしないと活性化にならないと思います。

委員

合併によって緑と水が手に入って、都市と農村のある日本の縮図になりました。豊田市の誇りとして、山や、緑、農村と都市のあるまちとなればいいと思います。おいしい米も野菜も果物も採れるので、採れたてのものが、まちなかで食うことができたなら、回遊出来るのではないかと思う。こういったあるものを活かせる補助金があればいいと思います。

委員

地域の物を、中心市街地の駅で買える場所が必要だと思います。

委員

都心環境計画や中心市街地活性化計画との関連でどうするのかという話もあります。にぎわいのあるまちづくりのための施策をうっていくとかです。面的に連携しながら、施策を打っていくよという書き方が良いと思います。誰が何を何に対して支援するのか、何を表しているか、イメージが出来るようになると思います。

イメージとして何をやろうとしているかです。例えば、人材育成が目玉だとしたら、実際に何をやろうとしているのかです。巡回指導を徹底的にやっていくのか、やる気のあるところには研修資金を援助するのか。イメージが出来ないです。

刺激になるようなインセンティブに繋がるようなものにして、今まで効果の無かったものは切り替えていかないといけないです。大学と商店の連携に補助出来るようなものとかです。また、中山間地域や、高齢化（独居）等も入れておいた方が良くと思います。

委員

老朽化した街路灯の撤去。商店街が解体して、撤去が出来ない場合の撤去費用の支援もあると良い。

5 連絡事項

6 閉会